

III

児童生徒のコミュニケーション能力を育成する 取組の実践 ～研究協力校の実践から～

- 1 コミュニケーション能力の育成に資する手法を
理解する校内研修の実践
 - ・ 小学校 「構成的グループエンカウンター」
 - ・ 中学校 「アサーショントレーニング」
 - ・ 高等学校 「アサーショントレーニング」
- 2 コミュニケーション能力を育成する指導の実践
 - ・ 小学校 「特別活動」
 - ・ 中学校 「社会」
「道徳」
 - ・ 高等学校 「現代社会」

構成的グループエンカウンター

～当別町立西当別小学校～

研修のねらい

構成的グループエンカウターの考え方と手法を理解し、様々な教育活動に生かすことができるようにする。

講 師：研修担当教諭
研修時間：60分
参加人数：20名
会 場：会議室

研修の流れ

時間	内容項目	内 容	※留意点 □資料
1分	1 はじめに	・ねらいの説明	
9分	2 構成的グループエンカウンターについて	説明 (1) 構成的グループエンカウンターとは (2) 構成的グループエンカウターの特長 (3) 構成的グループエンカウターの基礎知識 ア 展開例 イ 構成的グループエンカウターを進める際の留意点	□校内研修資料「構成的グループエンカウンター」
45分	3 構成的グループエンカウターの実際	演習 (1) 「アウチでよろしく」(感受性の促進) ア 全員と、互いの人差し指を合わせて挨拶をする イ 最後にアウチをした相手とペアになる (2) 「ねえ、どっちがいい」(自他理解) ア 各自、演習シート1に示した選択肢のうち、よいと思うものを選ぶ イ 選んだものとその理由をペアで話し合う ウ 感じたことや気付いたことをペアで伝える (3) 「みんなでリフレーミング」(自己受容) ア 2つのペアを合わせて4人組になる イ 1人が自分の短所を1つ言い、メンバーがすかさず長所に言い換える ウ 短所を言う人を交替し、次々にリフレーミングする (4) 「ありがとうカード」(自他理解) ア (3)のメンバーに対する自分の気持ちを伝える イ リーダーの合図で、一斉に付箋紙を交換する ウ 付箋紙に書かれたメッセージを確認する	□演習シート1 ※選択肢を○で囲むよう指示する □演習シート2 ※演習シート2は、児童がリフレーミングに取り組む際に用いるとよいことを説明する ※伝えたい気持ちを付箋紙に書く ※自分のよさや他人のよさに気付くよう指導する
5分	4 まとめ	説明 (1) 児童の実態把握とねらいの明確化について (2) 教育課程との関連について	
	終 了		

構成的グループエンカウンターに初めて出会う先生方が、児童の立場で楽しみながら構成的グループエンカウターのよさに気付くことができるよう、取り組みやすいエクササイズを選択し、プログラムを構成しました。

【配付物】

□校内研修資料「構成的グループエンカウンター」

□演習シート

□付箋紙

【演習シート 1】

演習シート 1

ねえ、どっちがいい

年 組 番 名 前 _____

1	ジュース	・	アイスクリーム
2	カレーライス	・	ラーメン
3	先生	・	生徒
4	生まれ変わるなら 男	・	女
5	社長	・	副社長
6	太陽	・	月

(参考:「構成的グループエンカウンター事例」 図書文化)

【演習シート 2】

演習シート 2

みんなでリフレーミング

○ あなたが、自分の短所だと感じていることを、友達にリフレーミングしてもらいましょう。

あなたの名前を書きましょう。

① さんは

あなたが、自分の短所だと感じていることを書きましょう。

②

(こと) を、自分の短所だと感じています。

○ 友達の短所をリフレーミングしましょう。

③ しかし、見方を変えれば、それは

という長所なのです。

○ リフレーミングした結果を、友達に伝えましょう。①、②、③の順に、続けて読んであげてください。

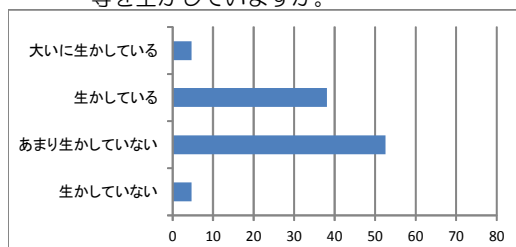
(参考:「構成的グループエンカウンター事例」 園分厚子・園分久子 図書文化)

研修を終えて

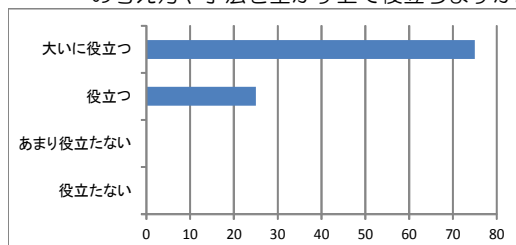
○ 研修後のアンケートから

研修で身に付けた教育相談の考え方や手法を、児童への指導に生かそうとする意欲の高まりが見られました。また、教育相談に関する校内研修を希望する声が高まりました。

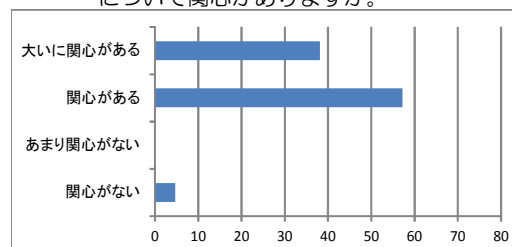
【研修前】児童生徒への指導に教育相談の考え方や手法等を生かしていますか。



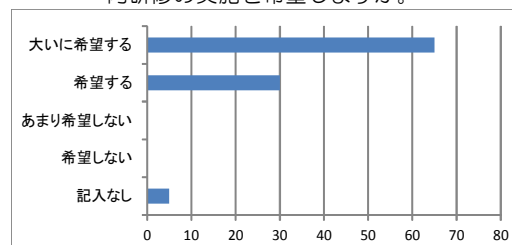
【研修後】研修の内容は、児童生徒への指導に教育相談の考え方や手法を生かす上で役立ちますか。



【研修前】教育相談の考え方や手法等に関する校内研修について関心がありますか。



【研修後】今後も、教育相談の考え方や手法に関する校内研修の実施を希望しますか。



アサーショントレーニング

～当別町立西当別中学校～

研修のねらい

アサーションの基本的な考え方について理解し、教育活動にアサーショントレーニングを生かすことができるようになる。

講師：研修担当教諭

研修時間：60分

参加人数：20名

会場：会議室

研修の流れ

時間	内容項目	内 容	※留意点 □資料
2分	1 はじめに	・児童生徒のコミュニケーション能力の育成とアサーショントレーニングとの関連についての説明	□校内研修資料「アサーショントレーニング」
5分		演習 ○ 3つのタイプの自己主張 「あなたの断り方は？」	※ペアで演習を行う
10分	2 アサーショントレーニングの基礎知識	説明 (1) アサーションとは (2) 3つのタイプの自己表現 ・非主張的（ノンアサーティブ）な自己表現 ・攻撃的（アグレッシブ）な自己表現 ・アサーティブな自己表現 (3) 基本的アサーション権の理解	
35分	3 アサーショントレーニングの実践例	演習 (1) 自尊感情や相互尊重のスキル 「ほめ言葉をプレゼントしよう」 (2) さわやかな自己表現のスキル 「3つの話し方」 (3) アサーティブなコミュニケーションのスキル 「『DESC』で話してみよう」	□資料1 ※3人組で演習を行う □資料2 ※3人組で演習を行う
5分	4 教育活動に生かすアサーショントレーニング	説明 (1) アサーショントレーニングの教育活動への生かし方 (2) アサーショントレーニングを教育活動に生かす際の留意点	□校内研修資料「アサーショントレーニング」
3分	5 まとめ 終了	・日常的な児童への関わりなど、様々な場面でアサーショントレーニングを活用することについての説明	
【配付物】 □校内研修資料「アサーショントレーニング」 □資料1、2			

アサーションの基本的な考え方について、演習を通して理解できるよう、3種類の演習を取り入れました。

【資料 1】

僕へのほめ言葉、私へのほめ言葉

- 1 自分の好きなところはどこ？
- 2 人より少しはうまくできるかなと思えることはなに？
- 3 前はできなかったのに、最近できるようになったことはなに？
- 4 うれしいと思えるときはどんなとき？
- 5 自分でがんばっていると思えることはどんなこと？
- 6 どんなところを一番ほめてほしい？

ふりかえりシート

- 1 自分への「ほめ言葉」を発表したとき、どんな気持ちになりましたか？
- 2 友達からほめられたとき、どんな気持ちになりましたか？
- 3 友達をほめたとき、どんな気持ちになりましたか？
- 4 今日のワークの感想があれば、どんなことでもいいので書いてください。

【資料 2】

3 種類の会話シート

勉強しようと思っていたテストの前日、友達が突然ノートを借りにきました。

友：おい、明日のテスト範囲が書いてあるノートを貸してくれよ。
A：え、ノート？でも…。
友：いいじゃないか。おまえはもう勉強してあるだろう。
A：でも、字が汚くて読めないかもしれないし…。
友：大丈夫だよ。そんなことかまわないよ。
A：うん…そうだね…じゃあ、いいよ。

友：おい、明日のテスト範囲が書いてあるノートを貸してくれよ。
B：え?! そんなことできるわけないだろう。
友：いいじゃないか。おまえはもう勉強してあるだろう。
B：だめだよ、絶対。今頃何を言っているんだよ。
友：そんなこと言わないでさあ、頼むよ。
B：ぜったい、だめ。無理。いいかげんにしろ。

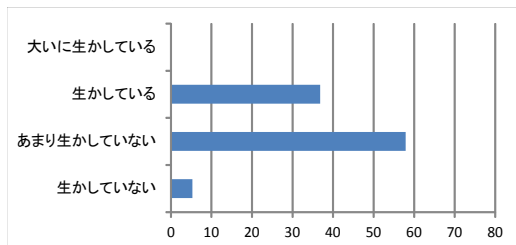
友：おい、明日のテスト範囲が書いてあるノートを貸してくれよ。
C：えっ、今日はこれから帰って勉強しようと思っていたんだ。だから、悪いけど貸してあげられないんだ。
友：いいじゃないか。おまえはもう勉強してあるだろう。
C：ごめんね。まだちゃんと勉強していないから、今日はどうしても勉強したいんだ。
友：そんなこと言わないでさあ、頼むよ。
C：でもやっぱり今日はだめなんだ。もし貸してほしいときがあったら、今度はもっと早く言ってくると貸してあげられるかもしれないね。

研修を終えて

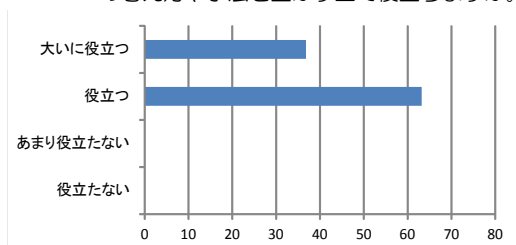
○ 研修後のアンケートから

研修で身に付けた教育相談の手法や考え方を、生徒への指導に生かそうとする意欲の高まりが見られました。

【研修前】児童生徒への指導に教育相談の考え方や手法等を生かしていますか。



【研修後】研修の内容は、児童生徒への指導に教育相談の考え方や手法を生かす上で役立ちますか。



<研修参加者の主な感想>

- お互いの気持ちを考えることができれば、思いやりの心も育むことができると感じた。
- コミュニケーション能力の育成は、生徒が上手に人間関係をつくる方法の1つであると思う。
- 日常の指導の中でアサーションの考え方で生徒と接することや生徒同士がアサーティブに表現する力を身に付けていくことが大切である。
- 生徒と接する上で役立ちそうなので、実践していきたい。
- 生徒の行動には理由があるので、生徒の思いをしっかりと受け止めてから、どうアプローチしていくか考えようと思った。
- D E S Cは、学活や授業において、考えを整理するために活用できそうだと感じた。
- 言葉かけ一つで、相手の心情が大きく変化することが再確認できた。

アサーショントレーニング

～北海道札幌月寒高等学校～

研修のねらい

アサーションの基本的な考え方と手法を理解し、様々な教育活動に生かすことができるようにする。

講 師：研修担当教諭
研修時間：60分
参加人数：20名
会 場：会議室

研修の流れ

時間	内容項目	内 容	※留意点 □資料
2分	1 はじめに	・ねらいの説明 演習 ○ 3つのタイプの自己主張 「あなたの断り方は？」 ア 演習シート1で示されたケース1～3から、各自、一つを選択する。 イ 選択したケースについて、どのように断るか、各自、セリフの形で記入する ウ 講師の指名により、記入したセリフを発表する エ 感じたことや気付いたことを全体で発表する	□演習シート1 ※この後の自己表現の3つのタイプを理解しやすくするために、最初に演習を行う
25分	2 アサーショントレーニングの基礎知識	説明 (1) アサーションとは (2) 自己表現の3つのタイプ ・非主張的（ノンアサーティブ）な自己表現 ・攻撃的（アグレッシブ）な自己表現 ・アサーティブな自己表現 (3) 基本的アサーション権の理解	□校内研修資料「アサーショントレーニング」
30分	3 アサーショントレーニングの実践	演習 ○ アサーティブなコミュニケーションのスキル「DESC」で話してみよう ア DESCについて、説明する イ 各自、示された事例について、演習シート2にDESCの枠組みに基づいて、セリフの形で記入する ウ 記入したセリフを発表する エ 感じたことや気付いたことを全体で伝える	□演習シート2
3分	4 まとめ 終 了	説明 ○ 自分も相手も大切にするアサーションの考え方が大切であること	
【配付物】 □校内研修資料「アサーショントレーニング」 □演習シート1、2			

校内研修の担当教諭が、自分の経験や生徒同士でよく交わされる会話などの具体例を挙げながら、アサーションの基本的な考え方についてわかりやすく説明しました。

【演習シート１】

あなたの断り方は？

（ケース１）

試合の前日、部活動の練習に向かう途中、友達に数学の勉強を教えてほしいと頼まれました。あなたは気がのりません。

（ケース２）

夜、友達から電話がかかってきて、相談があるので今から公園に来てくれないかと言われました。あなたは気がのりません。

（ケース３）

友達から、私たちの悪口を言っている子を無視しようと言われました。あなたは気がのりません。

【演習シート２】

DESCシート

あなたは、郊外に新築した家に住んでいます。ある晴れた日曜日、友人が犬を連れて遊びに来ました。犬を庭につないで、あなたと友人は居間で話していました。ふと見ると、つないでいる犬が植えたばかりのバラのつぼみに触っています。あなたは気になってそのことを友人に伝えようとしています。

D：描写する（見たこと、事実の確認）

E：表現する、説明する、共感する
（感じたこと、思ったこと）

S：特定の提案をする（提案、お願い）

C：選択する（提案を受け入れてもらえないときに自分はどうするか）

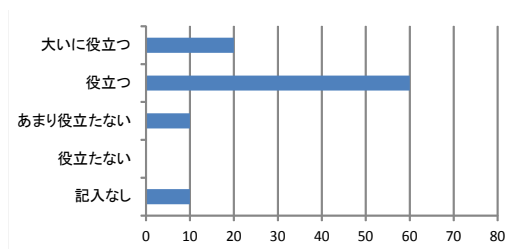
◎ 上の文を全部つなげて、話し言葉で書いてみよう

研修を終えて

○ 研修後のアンケートから

研修で身に付けた教育相談の考え方や手法を、生徒への指導に生かそうとする意欲の高まりが見られました。また、教育相談に関する校内研修を希望する声が多く見られました。

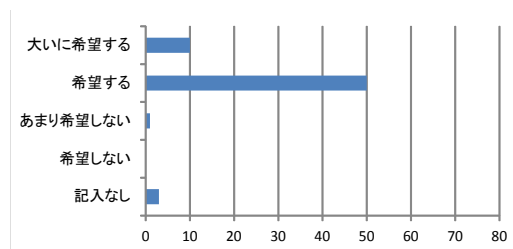
【質問１】研修の内容は、児童生徒への指導に教育相談の考え方や手法を生かす上で役立ちますか。



＜研修の成果を生かしたい場面についての主な記述内容＞

- ・生徒から相談を受けたとき。
- ・個人面談のときや問題が表面化してクラスで取り組むべきと判断したときに、時間をつくりクラスで指導したい。
- ・担任との面談や進路相談、生徒指導などで生かせる。
- ・学校で行っている教育相談に生かすことができる。
- ・道徳やHR等だけではなく、アルバイト先などでの対応を含め、学校において練習する場面を設定する必要がある。

【質問２】今後も、教育相談の考え方や手法に関する校内研修の実施を希望しますか。



＜主な自由記述＞

- ・基本的アサーション権を意識した指導はこれからの時代に重要になると思う。
- ・少なくとも自分が You are OK.の考えをもっていなければ、生徒との人間関係を構築することが難しくなると思った。
- ・アサーションは役立つと思った。
- ・相手の気持ちばかりではなく、もっと自分の気持ちを伝えるべきだと感じた。
- ・教員にとって、知識として当然知っておくべきことだと思う。

「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫

小学校 特別活動における実践 ～当別町立西当別小学校～

実践事例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

ポイント★1 アサーショントレーニングの考え方を活用した授業展開により、自己表現の傾向を自覚することができるようにしています。

ポイント★2 「3つの話し方」のロールプレイングによって、自分も相手も大切にしながら自分の気持ちを伝える表現について、考えを深めることができるようにしています。

- 1 学 年 小学校 第5学年
- 2 題 材 名 友達との関わり方を見直そう～自分も相手も大切に
- 3 題材の目標 自分も相手も大切にする考え方や相手を大切にしながら、自分の気持ちを伝える具体的な方法を身に付けるとともに、友達と関わる様々な場面で実践しようとする態度を育てる。

4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	○ 1週間、友達に自分の気持ちや考えを伝えることができたかどうかをノートに記録する。 ○ 本時の学習への関心をもつ。 ・これまでに、友達に自分の気持ちや考えをうまく伝えることができた経験やできなかった経験を紹介合う。	・帰りの会で記録の時間を設ける。 ・意図的指名により、自分の気持ちを抑え込んでしまった経験や、伝え方によって相手との関係が悪化した経験を全体に紹介させ、本時の学習への関心を高める
展 開	○ 自分の気持ちや考えを相手に伝える表現について考える。 ・学習シートに提示された場面をもとに、相手に気持ちや考えを伝える自分なりの表現を書く。 ※詳細は次ページ参照 ・全体で交流する。 ○ 「3つの自己表現」を知る。 ・ペアで「のび太タイプ」「ジャイアンタイプ」「しずちゃんタイプ」の話し方のロールプレイングを行う。 ・ロールプレイングを通して気付いたことや感じたことを、全体で話し合う。 ・「しずちゃんタイプ」の表現が自分も相手も大切にする表現であることを理解する。 ○ 自分も相手も大切にする自己表現について考える ・今後、自分も相手も大切にしながら自分の気持ちを伝えるために実践できそうなことを、学習シートに記入し、全体で交流する。	・非主張的な自己表現を「のび太タイプ」、攻撃的な自己表現を「ジャイアンタイプ」、アサーティブな自己表現を「しずちゃんタイプ」として、児童にわかりやすく説明する。 *【思】自分も相手も大切にしながら自分の気持ちを伝えるために実践できそうなことを考えている。 (学習シートへの記述内容、発言の内容)
終 末	○ 友達との関わりにおいて、自分も相手も大切にする自己表現を意識して友達と関わる。 ○ 帰りの会で、自分も相手も大切にする自己表現ができた経験について交流することを確認する。	*【思】自分も相手も大切にしながら自分の気持ちを伝えている。 (観察、対話、帰りの会における発言の内容)

「他者に働きかける力」を育成する指導の実際

1 自己表現の傾向を自覚させる学習シートの工夫

【学習シート】

本実践は、自分と相手を大切にする自己表現について体験的に理解することをねらいとしています。

初めに、提示された場面で自分がどのように答えるか、各自の学習シートに記入します。

次に、学習シートに記入した答えを全体で交流し、他者と似ているところや異なるところを意識することによって、各自が自分の表現の傾向を確認します。

自分も相手も大切にする話し方で話そう

5年組番名前

友だちと遊ぶ約束をしたあなたは、待ち合わせの場所で友だちが来るのを待っていました。ずっと待っていましたが、とうとう友だちはあらわれず、連絡もくれませんでした。次の日、学校でその友だちに会いました。友だちは、放課後いっしょに遊ぼうとあなたをさそいます。

友だち「今日の放課後、いっしょに遊ぼうよ。」
自分「」

【学習シートに記入された、主な“自分の答え”】

昨日は遊べなかったけど、今日は遊べるの？遊べるならいいよ。

いやだ。だって昨日ずっと待っていたのに来なかったから。今日もこんなことされたらいやだ。

いいけど、昨日は待ち合わせ場所に来なかったから、今日は必ず来てね。

2 「3つの話し方」によるロールプレイング

【3つの話し方】

自己表現の3つのタイプについて、ロールプレイングを通してそれぞれの特徴に気付くことができるようにします。

まず、自己表現の3つのタイプについて、非主張的な自己表現を「のび太タイプ」、攻撃的な自己表現を「ジャイアンタイプ」、自分も相手も大切にするアサーティブな自己表現を「しずかちゃんタイプ」として説明します。

アニメの登場人物に例えた説明により、自己表現の3つのタイプについて、短時間で正しく理解させることができました。

次に、3つの自己表現のタイプの特徴に気付かせるために、ペアでロールプレイングをする活動を設けます。

ロールプレイングを通して気付いたことを交流する場面では、「のび太タイプでは気持ちが相手に伝わらない」「ジャイアンタイプでは、仲直りに時間がかかりそう」などの発言があり、「しずかちゃんタイプ」の自己表現は自分も相手も大切にしたい表現であることを確認しました。

〈のび太タイプの話し方〉

「(小さな声で)う、うん…。」

「うん、ちょっと…。」

〈ジャイアンタイプの話し方〉

「だめに決まっているだろう。昨日どうして来なかったんだよ。もういっしょに遊んでやらないからな。」

〈しずかちゃんタイプの話し方〉

「その前に、昨日はどうしてこなかったの？」

「そうだったんだね、それなら、電話してほしかったな。今日は家族と出かけるから遊べないの。また今度遊ぼうね。」



【ロールプレイングを行い、自分も相手も大切にする自己表現についての気づきを交流する児童】

学習の効果

1 個の変容

ある児童は、自分の気持ちを相手に伝える表現について、学習シートに右のように記入していました。

自己表現の3つのタイプについて説明を受け、自分の表現は非主張的であることを確認し、ロールプレイングを通して、自分の気持ちを率直に表現することの大切さに気付きました。

本時の学習を振り返る場面では、アサーティブな自己表現のよさに気付き、これまでの自己表現を見つめ直すことができました。

【ロールプレイングを行う前に考えた表現】

自分：「昨日ずっと待ってたのに…。どうして連絡もくれないんだよ」



【学習の振り返り】

「自分も相手も大切にする話し方で話そう」の学習を通して感じたことや、気づいたことを書きましょう。

自分も相手も大切にする話し方だと、がまんしたりすることが無いから、大切だなと思った。

【学習の振り返りにおける主な感想】

最終的に、しずかちゃんタイプがいいと思った。あと、のび太タイプはダメだと思った。

自分だけではなく、相手のことを考えて話さなければいけないと感じた。

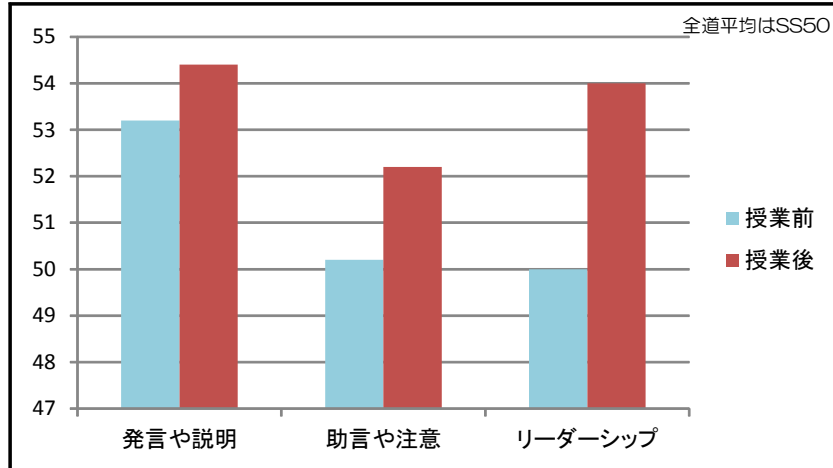
私はジャイアンタイプでした。これからは、しずかちゃんタイプの話し方も取り入れてみます。

2 全体の変容

子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を授業の前後で比較すると、右図のような変容が認められました。

このことから、自分も相手も大切に自己表現について学ぶことによって、アサーティブな表現を活用して自分の意見を相手に率直に伝えようとする意識が高まったと考えられます。

【子ども理解支援ツール「ほっと」の結果から】



アサーショントレーニングの考え方やロールプレイングを活用した指導により、「他者に働きかける力」を高めることができました。

※各項目における質問の観点

- ・「発言」：自分の意見を率直に伝えることができる。
- ・「助言」：相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることができる。
- ・「リーダーシップ」：自分の意見を率直に伝えることができる。

「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

中学校 道徳における実践

～当別町立当別中学校～

実践事例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

ポイント★1 公正、公平について自分の考えを書く活動を通して、自己を見つめることができるようにしています。

ポイント★2 他の生徒と話し合う活動を通して、公正、公平についての考えを深め、正しいことを自ら積極的に実践しようとする心情を育てるようにしています。

- 1 学 年 中学校 第1学年
- 2 主 題 名 公正、公平 内容項目4－(3)
- 3 本時のねらい 公正、公平な友人との接し方や言動についての考えを深め、正しいことを自ら積極的に実践しようとする道徳的心情を高める。
- 4 資 料 名 「見て見ぬふり」(自作映像資料)
- 5 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導入	○ テストを受ける際のルールの意味について発表し合う。 ・ 皆さんが、テストを受ける際のルールを守っているのはなぜですか。	・ 現在の自分について振り返ることを促す。
展開前半	○ 映像資料「見て見ぬふり」を視聴して、感じたことや考えたことをワークシートに書く。 ・ 隣の席の人が誤答を書き直して先生に加点を求める様子を見た主人公は、どのような気持ちになったでしょう。 ・ もし、同じ場面を見たら、あなたはどのようにしますか。	
展開後半	○ グループで考えを交流し、公正、公平な友人との接し方について考える。 ・ これまでに、公正、公平な態度で友人に接したことはありますか。そのとき、どのようなことを考えましたか。 ・ グループで話し合ったことをワークシートに書きましょう。 ○ グループで話し合ったことを、全体で交流する。 ・ 自分のグループの意見と比べながら、他のグループの意見を聞き、気付いたことをワークシートに書きましょう。 ○ 話し合いを通して感じたことを「心のノート」にまとめる。	・ 公正、公平な友人との接し方についての考えが深まるよう、グループごとに話し合わせる。 * 公正、公平な態度で友人に接することの大切さに気付いている。 ・ 心のノート102ページを活用する。
終末	○ 学習のまとめをする。 ・ 教師の説話を聞く。	・ 正しいことを自ら積極的に実践しようとする意欲を高める説話をする。

「前向きに考える力」を育成する指導の実際

1 公正、公平についての考えを書く活動の設定

本実践は、公正、公平についての自分の考えやこれまでの行動を、書く活動を通して振り返ることをねらいとしています。

初めに、自作映像資料「見て見ぬふり」を視聴し、資料の登場人物が友人の不正を見逃したときの気持ちをワークシートに記入します。書くことで通して、不正を見て見ぬふりをした主人公の心情について深く考えることができます。

次に、資料と同じ場面を見たときに自分ならどうするか、考えをワークシートに書き、考えをワークシートに書き、自分の公正、公平な考えや、行動について振り返ったり、自覚したりすることができるようになっています。

また、自分ならどうするかを考え、書くことで通して、自身を公正、公平にすることができ、後半における、資料を離れて自分自身の公正、公平な考えや行動について話し合う活動にスムーズに移ることができるようにしています。

【自作映像資料「見て見ぬふり」概要】

テストが返却された際、隣の席の人がこっそり誤答を書き直し、先生に点数の訂正を求めた。
先生は、不正に気付かず加点した。

【ワークシート】

1 年 組 番 名前

○ 隣の席の人が誤答を書き直して先生に加点を求める様子を見た主人公は、どのような気持ちになったでしょう。

○ あなただったら、どのように行動しますか。

2 公正、公平についての考えを深める交流活動の設定

交流活動を通して、公正、公平についての考えを深めることができるよう、各グループで話し合ったことを報告し、合う全体交流を設定する。また、グループや全体的な話し合いにおける指示や発問を吟味しています。



【交流活動における指示、発問】

〈グループ交流〉

発問 これまでに、友達に対し公正、公平な態度で接したことはありますか。そのとき、どのようなことを考えましたか。

指示 互いの経験やそのときの考えを知らせ合い、公正、公平な態度で接することについて意見交流をしましょう。

〈全体交流〉

指示 自分のグループで話し合われた内容と比べながら他のグループからの報告を聞き、気付いたことや考えたことをワークシートに書きましょう。

学習の効果

1 グループの変容

あるグループの交流では、初めは公正、公平な態度で接することにより相手との関係が悪くなる恐れがあることについて話し合われましたが、「公正、公平な態度で接しなければ、相手のためにならない」という発言を機に、相手とのよりよい関係を築くことと、公正、公平な態度で接することとの関わりについて話し合われるようになりました。

【グループ交流の様子】

- 生徒 A 「悪いことはいけない」は、きれいごとにならない。
- B もし相手がすごく怖い人だったら「先生に言ったでしょう」などと言われるから、正しいことでも言えないと思う。
- A 例えば、相手が仲のよい人だったら…暴力的な人だったら…。
- C でも、正しいことを言わないのは、相手のためにならない。
- D たとえ相手が怖い人だったり、すごく仲のよい人だったりしても、悪いことを見なかったことにするのはよくないと思う。
- E 相手のよくない行動について黙っているのは本当の友達ではないと思う。ダメなことはダメ。

【全体交流後にワークシートに記入された主な気づきや考え】

もしかしたら、正しいことを言えば相手が変わるかもしれない。勇気を出して正しいことを言うのも大切だと思う。

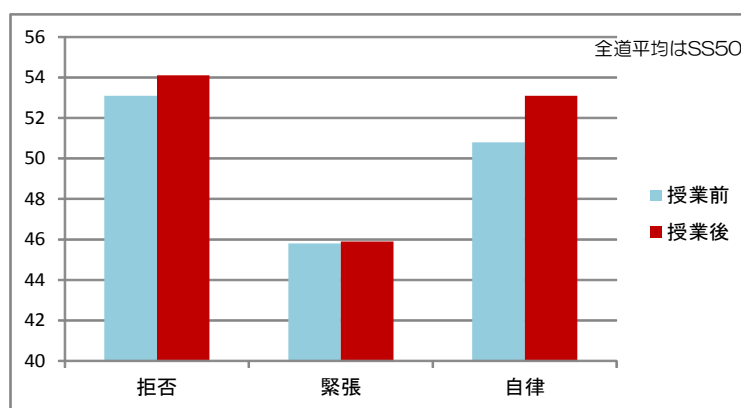
実際の場面で、相手に注意することができるかどうか、自分でもわからない。でもぼくは、正しいことを言える人になりたい。

2 全体の変容

子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を授業の前後で比較すると、右図のような変容が認められました。

このことから、公正、公平についての考えを書いたり、他の生徒と交流したりする活動によって、自己を見つめ、正しいことを積極的に実践しようとする意識が高まったと考えられます。

【子ども理解支援ツール「ほっと」の結果から】



公正、公平についての考えを書く活動及び交流活動の充実を図ることを通して、「前向きに考える力」を高めることができました。

※各項目における質問の観点

「拒否」

- ・危険なことに誘われても、断ることができる。

「緊張」

- ・友達にどう思われているか不安で、本音を話すことができない。
- ・緊張して人前で話すことができない。

「自律」

- ・注意されたときなどに、嫌な気持ちを態度に出さない。

「前向きに考える力」を育成する指導の工夫

中学校 社会科における実践

～当別町立西当別中学校～

実践事例における「前向きに考える力」を育成する指導のポイント

ポイント★1 模擬裁判を通して、主権者として積極的に考え、自分の考えを表現できるよう、ワークシートの内容を工夫しています。

ポイント★2 グループで話し合う時間を確保し、自分の考えを互いに伝え合う中で、事実を多面的・多角的に捉える力や、意思決定する力を身に付けさせるようにしています。

- 1 学 年 中学校 第3学年
- 2 単 元 名 民主政治と政治参加
- 3 本時の目標 裁判員制度についての知識を深め、裁判員として大切なことを理解することができるとともに、裁判において人権を守るためには、より多くの人々の視点と裁判に関わる人々の公正な判断が必要であることに気付く。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 *評価
導 入	○ 前時までの授業の確認と、模擬裁判の流れを確認する。 ○ 学習課題を提示する。 課題：裁判員として評決を話し合おう。 ○ 役割分担をし、法廷をつくる。	・模擬裁判の進め方について説明し、裁判員制度の流れと法曹三役の役割を確認する。
展 開	○ シナリオ通りに模擬裁判を行う。 ○ 有罪か無罪か、個々に判決を考える。（1回目判断） ・検察と弁護側の主張について、証言や物証が信用できるか、自分なりの根拠をもって考える。 ・自分なりの考えでも、資料を根拠に理由を説明できるようにする。 ○ グループで評議・評決する。 ・話し合う時には「アサーティブ（自他肯定）」な自己表現を用いて、自分の意見も、他人の意見も大切にしながら評議・評決をまとめる。 ・評決する時には、一部の意見に偏らず、全員の意見を参考にする。 ○ 有罪、無罪について、判断した理由も含めて、グループごとに発表する	・資料を読み取り、裁判員として公正に判断し、自分の考えを表現するよう促す。 ・4～5人のグループで争点が信用できるか判断させる。 ・「アグレッシブ」「アサーティブ」「ノンアサーティブ」な自己表現を例示し、生徒の気付きを取り上げながら、自分も相手も大切に自己表現を工夫させる。 ・有罪だと判断した場合、量刑をどのようにするか考えさせる。 *【知】法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることを理解し、その知識を身に付けている。（発表の内容、ワークシートの記入内容）
終 末	○ 自分が裁判員に選ばれた時、どんな心構えが必要か考える。 ○ 全体で交流する。	・裁判員制度には、どのような心構えが必要か感想を記入させる。

「前向きに考える力」を育成する指導の実際

1 自分の考えを大切にする学習活動の工夫

本実践は、司法制度の学習を通して、被害者・加害者はもとより、司法を取り巻く様々な人々の立場から、公正な裁判の保障について理解させることをねらいとしました。

初めに、提示されたシナリオに沿って模擬裁判を進めます。その後、生徒一人一人が被告人が有罪か無罪か、最初の判断を下しました。

【学習カードに示された主な“最初の判断”】

被告人を無罪にしたいと思います。それは証人1の証言から～ということがわかるからです。

被告人は有罪だと思います。証人2の証言が～という点で信用できるからです。

被告人は無罪です。なぜなら、疑わしきは罰せずというルールがあるからです。

2 評議・評決による最終判断

検察官、証人及び弁護人の主張について、その証言や物証についての根拠をもとに判断した理由をしっかりと意識させながら評議に移り、グループで話し合いました。ここでは、お互いの意見をしっかりと聞き、自分の意見も相手の意見も大切にしながら、判断の根拠を示し意見を述べました。生徒は、裁判員という立場に自分を置いて、自分の考えを明確に表明するとともに、グループのメンバーの意見も聞き、互いに意思疎通することにより事象を多面的・多角的にとらえ、他者に自分の考えを適切に表現する力を得ることができました。

＜意見交換の手順＞

1 個人の判断内容の発表

2 (有罪・無罪) とする判断への疑問点

3 班内での判断(有罪・無罪)を決める。

※有罪の場合には、懲役年数を決める。

班における(有罪・無罪) 懲役年数

班での評議による評決

わたしたちの班では、被告人を、

無罪 有罪 ① (懲役 ____ 年に処する。)

② (懲役 ____ 年
執行猶予 ____ 年に処する。)

判断の根拠は _____ です。

各グループごとに、有罪、無罪について、判断した理由も含めて発表しました。各グループの発表を聞きながら、グループにおける意思決定がどうであったかの振り返りを行いました。

また、判決を下すことによる社会への影響や、どのような社会を目指した上での判断だったのかを考えました。

終末の段階における裁判員の心構えの記入では、将来の主権者として、自分は社会にどう関わっていくべきか考えました。

学習の効果

1 個の変容

ある生徒は、1回目の判断では、右のように記入していました。

評議では、一方的に自分の考えを主張したり、非主張的になったりせずに、全員が自分の考えを仲間に伝え、グループ全員で右のように評決をまとめました。

本時の学習をふり返る場面では、人権を守るためには多くの人々の視点と公正な判断が必要であることに気付くとともに、よりよい社会をつくるためには、自分が正しいと思うことを率直に表現することが大切であることに気付くことができました。

【学習カードに示した1回目の判断】

被告人を無罪にする。

判断の根拠は、証人1の証言から考えて、被告人が罪を犯したと思えないからです。

【評議後】

被告人を有罪にする。

判断の根拠は、証人1の証言は不十分で、検察官の提出した証拠と証人2の証言がより有効であると思ったからです。
量刑 懲役1年 執行猶予2年に処する。

【学習の振り返りにおける主な感想】

授業に積極的に参加できたと思います。他の班の判決も納得できるものが多かった。

よりよい社会を作るためには、自分で意見を持ち、周りの人の考えを聞くことが大事だと思った。

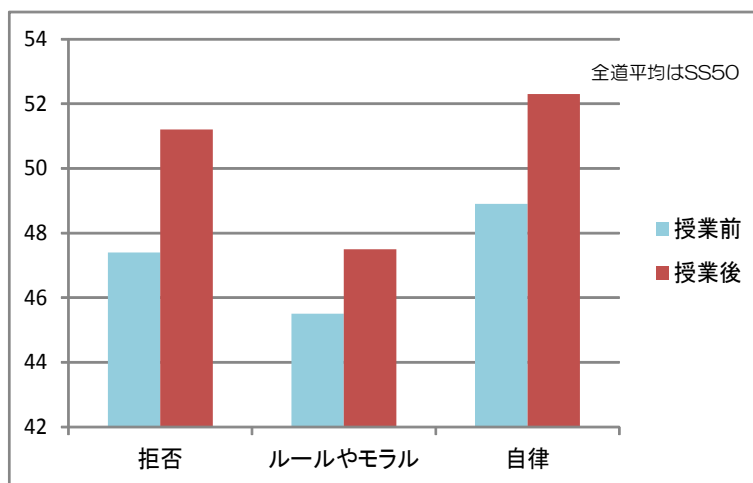
他の人を裁くのは、とても責任が重いことなので、みんなの意見を受け止めることが重要だと思いました。

2 全体の変容

子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を授業の前後で比較すると、右図のような変容が認められました。

このことから、自分も相手も大切に自己表現について学ぶことにより、様々な場面において何が正しいのかを判断し、自分の考えを相手に率直に伝えようとする意識が高まったと考えられます。

【子ども理解支援ツール「ほっと」の結果から】



アサーションの考え方を活用した指導により、「前向きに考える力」を高めました。

※各項目における質問の観点

「拒否」

- ・危険なことに誘われても断ることができる。

「ルールやモラル」

- ・学校のきまりやルールを守ることができる。

「自律」

- ・注意されたときなどに、嫌な気持ちを態度に出さない。

「他者に働きかける力」を育成する指導の工夫

高等学校 現代社会における実践

～北海道札幌月寒高等学校～

実践事例における「他者に働きかける力」を育成する指導のポイント

ポイント★1 自分の意見が相手にしっかり伝えられるように、ワークシートの内容を工夫し、設定された立場に基づき、自分の考えを明確にできるようにしています。

ポイント★2 様々な自己表現のロールプレイングを行うことによって、アサーティブな（自分も相手も大切にする）表現について理解を深め、活用できるようにしています。

- 1 学 年 高等学校 第1学年
- 2 単 元 名 地方の政治は地方が行う
- 3 本時の目標 地方自治を身近なものとしてとらえ、自分たちの住む地域をどのような地域にしていきたいかについて関心をもち、自分の考えを表現しながら公正に判断する能力と社会に参画する態度を育成する。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	・指導上の留意点 ※評価
導 入	○ 北海道の地方公共団体の名前で知っているものをできるだけ限り考え、ノートに記入する。 ○ 本時の学習について確認する。 ・ワークシートに提示された、中心市であるA市と人口の少ないB町の市町合併におけるゴミ処理場の建設問題の題材について、教師の解説を聞き、理解する。	・都道府県市町村の行政区分制度が身近なものであることを意識させる。 ・いくつの都道府県市町村名を挙げるのができたか質問し、実際に答えさせる。 ・架空の市町の設定であるため、疑問があれば、質問するように促す。
展 開	○ 自分の考えがどのようなものか確認する。 ・ワークシートの該当箇所に、B町に住んでいる人の立場で、A市からの提案についての自分の考えを記入する。 ○ 3つの自己表現について理解する。 ・ワークシートにおいて、「アグレッシブ（攻撃的）」「ノンアサーティブ（非主張的）」「アサーティブ（自他肯定）」と記載された3つの自己表現を黙読する。 ・指名された生徒がロールプレイングを行う。 ○ アサーティブな表現について考える。 ・最初に記入した自分の考えが、3つの自己表現のうちどのタイプに該当しているか理解し、学習後はどのような自己表現をすべきかを考えてワークシートに記入する。	・何人かの生徒にそれぞれのロールプレイングをさせることで、周りの生徒が実際にどのように感じるかを体験させる。 ・何人かの生徒に指名し、感じたことや考えたことを答えさせた上で、全員の生徒にどの表現方法がよいのかを考えさせる。 ※【思】自分の最初の表現を振り返り、さまざまな立場に配慮した意見を考えている。（ワークシートの記述内容）
終 末	○ 政治と生活が密接に関連していることと、様々な立場に配慮して考えることが大切であることを理解する。	・公正に考えることの例として、今回学習したアサーションの考え方や表現方法を活用したことを確認し、これからの学習においても公正に考えることの大切さを説明する。

「他者に働きかける力」を育成する指導の実際

1 学習シートの活用

【学習シート】

右のように中心市であるA市と農業が主要産業のB町が、面積の広いB町における市町村合併における問題点を設定します。

B町の立場でA市が一方的にゴミ処理場を使わせようと言っている上、感情的に受け取り、攻撃的に対応しがちになるのに対して、B町がどのように答えるかを考えさせています。

市町村合併とゴミ処理場建設問題

1年組 番号 名前

隣同士のA市（人口30万人、観光・自動車製造業を主要産業とし、ゴミ処理場は50年経過し老朽化している）とB町（人口1万人で、農業を主要産業とし、ゴミ処理場は5年前に建設したばかり）にはそれぞれゴミ処理場があります。A市のゴミ処理場から出る煙で大気汚染や悪臭が発生し、A市の地域住民の生活にも影響が出てくる事態となりました。A市のゴミ処理場がこのまま運転されれば、大気汚染や悪臭が悪化する可能性があります。

A市「どうせ合併するのだから、A市のゴミ処理場を壊し、B町の新しいゴミ処理場を共同で利用しよう。」

自分 B町に住んでいる君は、どう答える？

「

」

2 「3つの話し方」によるロールプレイング

【3つの表現】

まず、A市の攻撃的な提案に対してB町の立場からの意見を考え、自分の意見をワークシートに記入しました。

その後、教師がアサーションの3つの自己表現について、説明しました。

そして、3つの自己表現の特徴に気付かせ、理解を深めるために、提示した例に基づいて、A市とB町の立場で書かれた台詞によるロールプレイングを設定しました。

ロールプレイングを通して、3つの自己表現の特徴をとらえ、アサーティブな表現は、自己も他者も大切にしたい表現であることを理解しました。

3つの自己表現を理解した上で、学習前に記入した最初の表現を見直しA市とB町それぞれの立場を大切にしたい表現を改めて考えました。

さらに、発表し合い、生徒それぞれの気づきを交流する中で、いろいろな立場の人に配慮する公正な考え方についての理解を深めました。

＜攻撃的な表現＞

「冗談じゃない。私たちが住んでいるB町は人口が少なく、過疎化・高齢化が進んでいるからゴミ処理をすべて引き受けろということか！！」

＜非主張的な表現＞

「わ、わかりました…。（A市は人口も多いし、機能も充実しているから、何も言えないな）」

＜アサーティブな表現＞

「私たちのゴミ処理場を利用することはいいけれども、これから一つになるから、全体でゴミを減らすことを考えたり、新しい条例を作ったりして新しいルールを考えませんか？」



【ロールプレイングを通して、自分も相手も大切にする自己表現について考える生徒】

学習の効果

1 個別の変容

生徒の実態を踏まえ、攻撃的な表現、非主張的な表現、アサーティブな表現のそれぞれのセリフを用意し、ロールプレイングを行いました。

【ロールプレイングを行う前の生徒の発言】

生徒 A 「A 市が攻撃的に言っているのだから、B 町の立場を攻撃的に言ってもいいんじゃないか。」



【学習後の生徒の発言】

生徒 A 「攻撃的に言ってきたから、攻撃的に言い返すのはよくないんだな。両方の立場から客観的に考えることが大切なんだな。」

初めは、ロールプレイングを行うことに抵抗感を示していましたが、取り組み始める中で、最初の生徒 A の後の生徒 2 人も一生懸命役になりきり、しかもそれぞれの考えを率直に表現できるようになりました。

こうした活動を通して、表現の仕方を知り、それを活用することにより、互いの立場を大切に考え、自分なりに表現することができるようになりました。

【ロールプレイング後の生徒の主な発言】

攻撃的な表現を聞くと、攻撃されているようで、怒りがわいてきました。

非主張的な表現を聞いて、普段の自分が、この表現をしていると思いました。

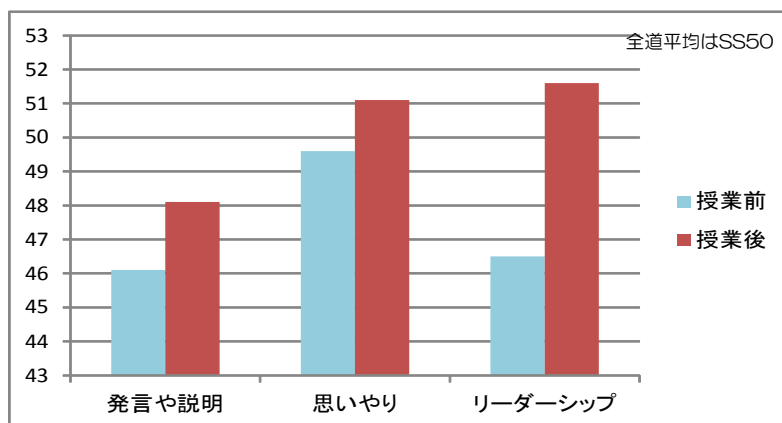
アサーティブな表現を聞くと、協力しながらやっていると誘われているようで、いい感じがしました。

2 全体の変容

子ども理解支援ツール「ほっと」の結果を授業の前後で比較すると、右図のような変容が見られました。

このことから、自分も相手も大切に自己表現について学ぶことによって、自分の意見や相手の気持ちを思いやることを大切にする意識が高まり、アサーティブな表現を活用して自分の意見を率直に言うことの大切さに気付いたと考えられます。

【子ども理解支援ツール「ほっと」の結果から】



アサーショントレーニングの考え方を生かし、異なる立場に配慮して意見を伝える学習を通して、「他者に働きかける力」を高めることができました。

※各項目における質問の観点

「発言や説明」

- ・ 反対意見や少数意見であっても自分の考えを言うことができる。
- ・ 場面や状況に応じて、自分の意見を伝えることができる。

「思いやり」

- ・ 困っている人のために思いやりのある行動をとることができる。
- ・ 相手の趣味に関心をもつことができる。

「リーダーシップ」

- ・ みんなの意見をまとめることができる。